



里公小だより

【教育目標】

学びとる子 思いやる子 きたえる子

R6年11月



11月2日里公小学校閉校記念式典 児童発表の様子です

114年の思いを込めて

校長 堀川 邦夫

11月2日（土）の里公小学校閉校記念式典には、たくさんの地域、卒業生の皆様、保護者の皆様からご参加いただき、本当にありがとうございました。第1部では、中川市長様の式辞、渡邊市議会議長様のご祝辞をいただきました。また、小林閉校記念事業実行委員長様、校長のあいさつなど、厳かな雰囲気でも式が進行されました。第2部では、全校児童の発表として、呼びかけや合唱を披露しました。最後には会場全体で里公小学校の校歌を歌い、心に残る式典となりました。その後の「思い出を語る会」でも、児童の呼びかけや歌を称賛する声をたくさんいただき、「里公小児童のよさ」をたくさんの方に伝えることができました。

閉校記念式典での校長あいさつの一部を紹介させていただきます。

本校の歩みを記した沿革誌を紐解きますと、明治43年に旧川浦尋常小学校・田村尋常小学校を統合し、里五十公野尋常小学校として創立されました。初年度の児童数は、男子220名、女子146名、計366名、全8学級であったことが記録されております。そして、現在までに5900名以上の方々がこの学び舎を巣立ち、各方面で活躍しておられます。

本校は豊かな自然環境の中で、地域に根ざした特色ある教育活動に力を注いでまいりました。昭和44年には、学校給食の運営と指導に関して文部大臣賞を受賞しました。ヤギ飼育に力を入れ、数年前までは、ヤギを通年で飼育し、出産、子育てまで体験する活動を続け、他校からも貴重な実践として広く伝わっています。また、平成21年には、コメ生産農家として、稲作栽培だけでなく、経済的側面からも課題を解決してきた実践は、全国からも注目され、「地域に根ざした食育コンクール2009」において、特別賞である審査委員会奨励賞を受賞しました。この取組は、今現在の里公小学校での実践にも活かされ、児童は栽培活動だけでなく、その後「自分たちが育てた作物をどのようにしたいのか」まで考え、課題を解決しております。

このような実践ができたのも、地域、保護者の皆様から、里公小学校の教育活動に格別なご支援・ご協力をいただいたおかげです。地域・保護者・学校が一つとなって、『すべては里公小児童のために』と、いつも同じ方向を向いて、共に歩めたことは、私たち教職員にとって、とても心強いものでした。改めて感謝申し上げます。

里公小学校児童の皆さん。里公小学校は、来年3月31日で閉校となり、上杉小学校、美守小学校の皆さんとともに、新しくできる三和小学校へと引き継がれます。今年度「みんなで笑顔になろう」を合言葉に、遠足や体育大会などで意欲的に取り組み、全校のみんなで協力してきました。そのおかげで、私はたくさんの笑顔を見ることができ、私たち職員を含め、みんながたくさん笑顔になりました。ありがとうございました。新しい三和小学校や中学校でも、これまで学び培ってきた自分のよさを自信と誇りにして、いろいろな場面で大いに活躍していくことを信じています。

12月の予定

日(曜)	行事・活動等
3日(火)	知能検査(1・3・5年 2限)
4日(水)	個別懇談(希望者)
5日(木)	個別懇談(希望者) 学校訪問カウンセラー来校日
9日(月)	三和ふれあい食堂 15:00～
10日(火)	人権擁護委員による出前授業(3校の5年生)
12日(木)	いじめ見逃しゼロスクール集会(5限) 委員会活動(5,6年生)2学期最終 学校訪問カウンセラー、スクールカウンセラー来校日
16日(月)	第3回地域児童会
17日(火)	統合実行員会による三和小学校説明会 ①15:00～ ②17:00～
23日(月)	第2学期終業式
24日(火)	冬季休業(～1/8まで)



三和中学校区同和教育推進の取組 No.4 講演会 『出会いと表現～あることをないことにしない～』

絆創膏の会 大湾 昇(おおわん のぼる)様



去る10月29日(火)、三和中学校を会場に、「人権問題、同和問題を学ぶ会」を開催しました。小学5年生から中学3年生までが参集し、「絆創膏の会」の大湾昇様の講演をお聴きしました。

大湾さんは、徳島県阿波市に生まれ、同和対象地区学習会専任指導員として母校の阿波市立八幡小学校に勤務されていました。2007年4月から同和問題をはじめとする人権教育講演会等で講師として全国で活躍中です。

今回の講演では、「当たり前」の中に潜む人権課題を分かりやすく、児童・生徒が自分事として考えられるようにお話していただきました。日常生活の中で使っている「差別」「友達」「仲間」「人権」とは？と、言葉の意味を問われると、児童・生徒は自分で応えられるよう真剣に考えていました。

「差別」とは、「努力しても変えられないところ、変える必要のないところを、悪意をもって攻撃すること」と話されました。例えば、生まれたところや、病を患っていることは本人の意思にかかわらないことです。また、「人権」は「生まれながらにもっている幸せになる権利」です。

最後に、新潟県で出会った壮絶ないじめを受けていた少女の話をお聴きして、いじめの辛さを知り、いじめを許さない気持ちを高めました。
<感想(抜粋)>

●差別、いじめはやっても得をする人はいない。複数でいじめをしている人は、いざ一人になったら自分では行動できなかったり、他の人にまかせたり、時には味方と思っている人を突き放したりするかもしれないので、人のことを何も考えていない最低な人間なのかなと思いました。

●この人にはきつくして、この人にはやさしくする、じゃなくて、みんなにやさしくできる人になりたい。

地域の皆様からも参加いただきました。ありがとうございました。